

令和7年度 高砂市 認知症地域支援推進員活動報告



認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：5名

(高砂市役所に2名 高砂市地域包括支援センターに3名配置)

2 認知症地域支援推進員の役割

- ・ 医療・介護等の支援ネットワークの構築
- ・ 関係機関と連携した事業の企画・調整
- ・ 相談支援・支援体制の構築
- ・ 認知症に関する社会資源等の情報収集及び提供
- ・ 認知症カフェ・チームオレンジの支援

報告者 高砂市福祉部人権福祉室地域福祉課：担当者名 糟谷 竜史
高砂市地域包括支援センター：認知症地域支援推進員 藤原 輝美

本人を中心に据えた、高砂市の途切れのない認知症施策ネットワーク



予防・早期発見

- あたまの健康チェック(月1回)
- 認知症相談センター(地域包括)
- 認知症相談会(月1回)
- 認知症初期集中支援チーム

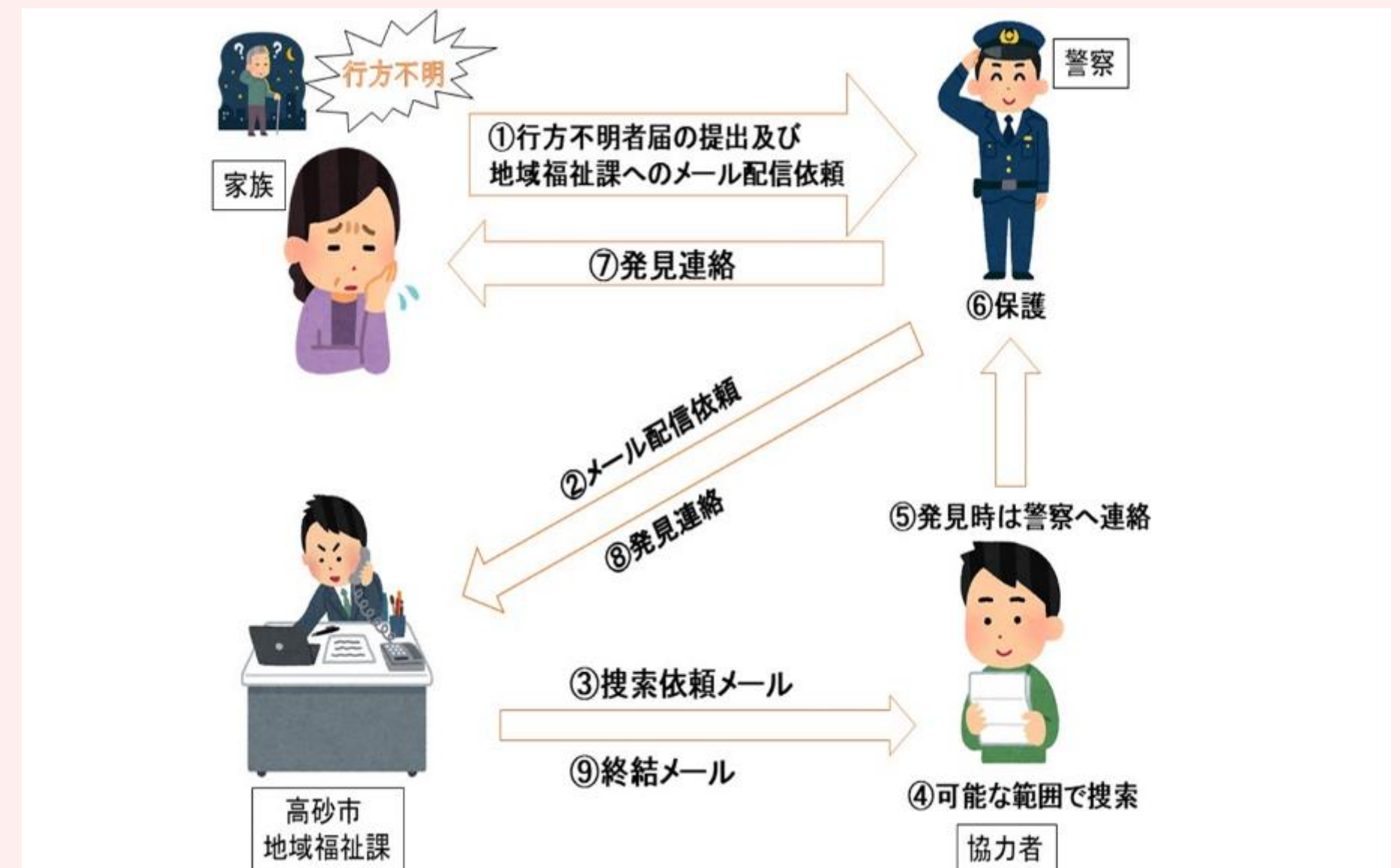
地域連携

- 高齢者等見守り・SOSネットワーク
- 認知症あんしんBOOKの作成(ケアパス)
- 認知症サポーター養成講座・認知症カフェ
- ステップアップ講座・チームオレンジ
- キャラバンメイト連絡会の開催

標題 高砂市における高齢者等見守り・SOSネットワーク模擬訓練について

高砂市認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク事業とは

行方不明のおそれのある認知症
高齢者等を日ごろから地域で見
守り、行方不明となった場合に
協力機関・協力者へメールを配
信して早期発見ができるしくみ



高齢者等見守り・SOSネットワーク模擬訓練



模擬訓練の目指すもの

- 認知症への理解を深める：
認知症の人や家族を日頃から地域で見守る
ひとが増えることを目指す
- 搜索協力の体制作り：
行方不明が発生した場合に、協力者や協力機
関が搜索協力できるよう、体制をつくっておく
- 地域の見守り体制作り：
近隣協力者で日頃からの見守り体制をつくっ
ておく

高砂市高齢者等見守りSOSネット
ワーク事業において、認知症等の
高齢者が行方不明になったと想定
し、ネットワークを活用して認知
症高齢者等への声掛け訓練や発見
・保護を行う訓練

模擬訓練の変遷 ～事業開始からコロナ禍を経て～

コロナ前 (H29年度～R1年度)

自治会を対象に屋外で開催。
搜索、声掛け、保護、通報までを体験。

参加数 16～26人 / 職員・協力者 17～18人



⚠ 実施する中で 見えてきた課題



- **屋外で搜索を含めると…：**
天候への配慮が必要。
搜索することに意識が向いてしまう。
- **規模が大きいと…：**
参加者代表（自治会）側にも
主催者側にも負担がかかる。
実施回数が少なくなる。

コロナ禍 (R2~R4年度)

少人数で開催。
声掛け・保護・通報までを
ロールプレイで体験

参加数15~18人/職員・協力者9~12人

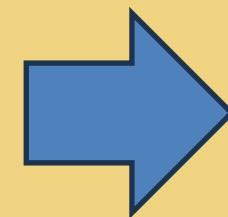
コロナ後 (R5~R6年度)

社協他部署と連携し、若い世
代にも実施。少人数・屋内型

参加数8~23人/職員・協力者2~10人

令和7年度の目標

認知症サポーターのさらなる
活躍を目指して



○認知症サポーター養成講座で
模擬訓練を広報

○認知症サポーターステップアッ
プ講座で模擬訓練を実施

コロナ禍を契機とした「小規模・声かけ中心・多世代」へ



屋外から屋内へ



ロールプレイで一連の流れを体験



大人数から少人数へ



様々な年代対象に



主催者・参加者の
負担軽減



開催回数
の増加



“
規模を小さくすることでお互いの負担を軽減し、
開催回数を増やすことができた
”



認知症推進員としての思い

模擬訓練は模擬とはいえ一度体験しているのといないのでは違う。認知症サポーター養成講座のようにもっとたくさんの人に体験してもらいたい。そのためにお互いに負担少なく実施できるやり方を市担当者・事業担当者と考え、いろいろな年代に実施していきたい。

認知症になっても安心して暮らせるまち高砂をめざして